

# 令和8年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

～自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力～

「学ぶ力」はさっぽろっ子に育みたい資質・能力として学校教育全般を通して育成する。  
※「学ぶ力」の定義の「自ら」には「自分で」に加えて、「自分たちで」という意味も含まれる。

## 「学ぶ力」の基盤 ▶ 協働を通して磨く 相互承認の感度

子ども一人一人の主体性を大切に多様な学びの実現  
～学びのコントローラーをもっているのは子ども自身～

各学校が「学ぶ力」育成プログラムを  
作成し、実行する

子どもの「～したい」を大切に主体的な活動の実現  
～変化を生み出した喜びを手応えとして心に残す～

課題探究的な学習

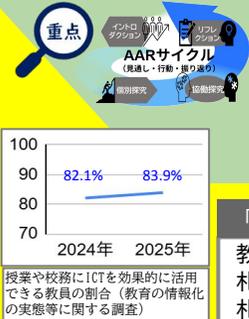
自治的な活動

- ・AARサイクルの視点で単元／題材を構成する  
【イントロダクション】子どもが課題を自分ごととして捉える（単元／題材の導入）  
【個別探究】子どもそれぞれが自らの学びを進める  
【協働探究】子どもが対話によって思考を再構築する  
【リフレクション】子どもが自らの学びや成長を振り返る
- ・「どの子にも」を意識した授業改善を図る  
目の前の子どもの実態に応じて課題探究的な学習を柔軟に展開する。  
→「どの子にも」を意識して、個に応じた指導や必要感に支えられた協働を充実させる。  
子どもが自分の考えをもちながら学び進められるように、探究の過程において、どの子にとっても「工夫の余地」が担保されるような場面を位置付ける。
- ・札幌市教育課程編成の手引を活用する

- ・「プラスのまほう」に基づく さっぽろっ子自治的な活動の推進  
一人一人の子どもが「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを目指して、子どもが学級・学校生活上の諸課題を話合って解決する機会の創出。  
・「～したい」という意欲をもち、自己決定しながら活動を進める機会の創出。  
・学級や学年の仲間、パートナー校や地域の方々などの多様な他者と合意形成を図り、協働して活動を進める機会の創出。  
・自らの活動の価値を実感したり、変容を自覚したりすることができる機会の創出。
- ・子どもの声を聴き 子どもの声を学校運営に反映させる  
札幌らしいコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、子ども一人一人の思いや願い、困りや悩みを多様な方法で丁寧に捉え、学校・家庭・地域が目指す子ども像や課題意識を共有しながら、子どもにとって本当に必要なことについて熟議し、「小中一貫した教育グランドデザイン」や各種教育活動に取り入れるなど、子どもの声を学校運営に反映させる。

## ICTの効果的な活用により「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る

- ・子ども同士の協働 課題解決に向けて、他者との対話や自己対話など思考が深まる学びや、考えをまとめて発表する場面での活用。
- ・教職員同士の協働 校種を超えてICTの利活用等について共通理解を図り、「学ぶ力」の育成に向けて協働的に教育活動を進める。
- ・家庭・地域との協働 子どもが必要性を主体的に判断して端末(アカウント)を持ち帰る等、学校での教育活動と家庭・地域での学びの架け橋として日常的に端末を活用。



「学ぶ力」の育成に向けて、教育委員会が進める主な施策

教育課程研究協議会 ～「学ぶ力」の育成に向けた授業改善や学校教育の在り方を協議する場

札幌市研究開発事業 ～「学ぶ力」の育成の研究推進校の提案

札幌市教育研究推進事業 ～「課題探究的な学習」を取り入れた授業実践を通じた学び合いの場

さっぽろっ子サミット ～市内全ての子どもが関わり自治的な活動を活性化させる

「人間尊重の教育」フォーラム ～「人間尊重の教育」推進事業の報告、共有

小中一貫した教育の充実に向けた専科加配の拡充

子どもの自己評価を生かした検証改善 札幌市全体の共通指標として、「学習などについてのアンケート」と「ICTの活用についてのアンケート」を実施することで、子どもの学習やICTの活用状況等を把握し、教育施策や各学校の取組に反映する。

「何のために」を考える場の創出

自己決定の場の創出

相互理解を生み出す対話の場の創出

## 社会に生きて働く「本物の経験」を生み出す

学びの見通しをもつ場の創出

直接体験の場の創出

失敗から学べる場の創出

## 札幌市学校教育の基盤

## 人間尊重の教育

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

### 「学ぶ力」の育成に向けた五つのポイント

さっぽろっ子の課題の改善を図るために設定したのが右の五つのポイントです。三つのスームを活用し、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育みます。

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

### 「学び」のスーム



### 小中一貫したつながりのスーム



### ICT活用スーム



## ■札幌市における全国学力・学習状況調査から見える傾向

### 教科に関する調査結果

小6、中3が対象（令和7年4月実施）  
 小学校調査は、国語、算数、理科  
 中学校調査は、国語、数学、理科 で実施

【小学校】⇒国語、算数、理科のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」

【中学校】⇒国語、数学のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」  
 理科のIRTスコアは515（全国平均は503）

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

◆教科に関する調査において、国語では、小学校は「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、中学校は「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」などに課題が見られた。中学校の数学では、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」などに課題が見られた。小学校の理科では、理科では、「考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること」などに課題が見られた。

### 児童生徒質問の結果

### 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

#### 課題探究的な学習に係る質問

■授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思う子どもの割合は、小学校、中学校ともに、前回調査と比べて増加している。

実施年度	小学校		中学校	
	札幌	全国	札幌	全国
令和3年度	79.2	81.4	67.6	74.3
令和5年度	79.9	82.9	67.3	74.9
令和6年度	81.6	84.3	77.1	80.9
令和7年度	82.5	83.4	77.5	79.3

■授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答したと思う子どもの割合は、前回調査と比べて、小中学校ともに増加傾向にある。

実施年度	小学校		中学校	
	札幌	全国	札幌	全国
令和6年度	89.2	91.6	91.5	92.3
令和7年度	91.0	91.9	91.6	91.9

■自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと思う子どもの割合は、前回調査と比べて小学校は増加し、中学校は減少しているが、いずれも全国平均から見ても低い値である。

実施年度	小学校		中学校	
	札幌	全国	札幌	全国
平成28年度	59.1	64.2	52.7	57.7
令和5年度	59.5	63.7	56.7	62.1
令和6年度	63.8	67.6	63.2	64.8
令和7年度	66.2	68.6	62.1	63.0

■各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと回答した子どもの割合は、前回調査と比べて、**小学校は増加し、中学校は減少しているが、令和5年度よりは高い値となっている。**

実施年度	小学校		中学校	
	札幌	全国	札幌	全国
令和4年度	68.8	72.2	60.9	67.4
令和5年度	71.5	74.4	59.8	69.1
令和6年度	75.9	79.6	70.5	75.4
令和7年度	76.7	77.8	67.3	70.6

#### さっぽろっ子自治的な活動に係る質問

■学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を定めている子どもの割合は、前回調査と比べて、**中学校は減少しているが、令和5年度よりは高い値となっている。**

実施年度	小学校		中学校	
	札幌	全国	札幌	全国
平成31年度	68.3	74.0	63.8	71.6
令和5年度	73.8	77.2	71.6	77.9
令和6年度	79.3	84.2	84.5	86.3
令和7年度	80.1	83.3	83.1	84.3

■学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した子どもの割合は、小中学校ともに**前回調査と比べて減少している。**

実施年度	小学校		中学校	
	札幌	全国	札幌	全国
平成31年度	68.2	73.4	59.1	65.6
令和5年度	73.0	75.7	64.4	71.6
令和6年度	79.2	82.5	77.9	80.6
令和7年度	78.2	80.8	75.6	77.3

◆子ども一人一人が、自分の思いや考えを形成したり、集めた情報や他者の考えを踏まえて自分の思いや考えについて捉え直したりすることができるような学習場面を、単元や題材の中に位置付けていく。ICTを活用する場面においても、収集した情報を基に、自らの考えを整理していけるような活用を進めていく。

◆「自治的な活動」においても、思いや願いを基にして、子ども一人一人が考えをもち、端末を活用するなどして、その思いや考えを分かりやすく相手に伝えるために工夫する機会を充実させていく。

## ■国際比較による日本の子どもの学力

**TIMSS 2023**  
 国際数学・理科教育動向調査

小4、中2が対象  
 算数・数学、理科の  
 知識・技能の習得状況

【小学校】算数5位（58か国中）、理科6位（58か国中）  
 【中学校】数学4位（44か国中）、理科3位（44か国中）

○小・中学校ともに国際的に見ても引き続き高い水準を維持している。前回調査に比べ、理科は小・中学校ともに平均得点が有意に低下している一方、中学校では「知識」「応用」「推論」の全領域で高い水準にある。  
 ○「数学、理科を勉強すると、日常生活に役立つ」「数学、理科の勉強は楽しい」と考える中学生の割合が増加傾向にある一方、算数・数学、理科を得意と思う小・中学生が減少している。（文部科学省・国立教育政策研究所から抜粋）

**PISA**  
 OECD生徒の  
 学習到達度調査

15歳が対象。義務教育修了段階で身に付けた知識や技能を、実生活の様々な場面でどの程度活用できるか。

### ■数学的リテラシー

数学的に推論し、現実世界の様々な文脈の中で問題を解決するために数学を定式化し、活用し、解釈する個人の能力

2018年 6位（79か国・地域中） 2022年 5位（81か国・地域中）

### ■科学的リテラシー

思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力

2018年 5位（79か国・地域中） 2022年 2位（81か国・地域中）

### ■読解力

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を展覧させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと

2018年15位（79か国・地域中） 2022年 3位（81か国・地域中）

○数学的リテラシー及び科学的リテラシー、読解力3分野全てにおいて前回調査より平均得点が上昇。  
 ○読解力、科学的リテラシーにおいて低得点層の割合が有意に減少し、数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて高得点層の割合が有意に増加。

（文部科学省・国立教育政策研究所から抜粋）

質問項目は「学ぶ力」の育成に向けた五つのポイントを中心に分類しています。(小中学校全学年を対象に実施し、小5、中2のデータを掲載)

令和7年12月実施

学習などについてのアンケート 集計 (令和7年度)

質問	小学校	R7-R6	中学校	R7-R6
<b>■相互承認 (自己承認、他者への承認、他者からの承認)</b>				
1 自分にはよいところがある。	84.9%	2.0%	84.2%	2.2%
2 人のよいところを見付けようとしている。	87.7%	1.2%	91.3%	0.9%
3 自分が必要とされていると感じる。	71.9%	4.1%	72.5%	4.1%
4 人の役に立ててうれしいと感じることがある	92.9%	0.4%	94.0%	0.7%
5 人の役に立つ人間になりたいと思う。	93.9%	0.3%	93.7%	0.4%
<b>■「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
6 自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。	75.0%	1.4%	79.0%	2.7%
7 自分の意見を進んで発言しようとしている。	66.7%	1.8%	61.1%	2.7%
8 意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。	80.2%	0.7%	81.1%	1.1%
9 分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。	86.9%	1.0%	85.9%	1.0%
10 学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。	84.7%	0.7%	81.6%	0.8%
<b>■意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
11 新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。	80.0%	1.4%	78.8%	3.9%
12 意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。	78.0%	1.7%	79.7%	0.7%
13 意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。	74.0%	2.8%	76.1%	1.7%
14 人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。	88.1%	1.8%	91.0%	1.5%
<b>■自分の「伸び」を実感して新たな目標をもつ 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
15 振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることもある。	77.8%	2.7%	78.4%	3.7%
16 振り返ったことを、次に生かそうとしている。	82.1%	1.8%	85.0%	2.2%
<b>■生活を自らコントロールする力 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
17 自分の目標をもって生活している。	81.5%	1.9%	74.8%	2.3%
18 1日の時間の使い方を自分で考えて生活している。	71.3%	1.9%	62.0%	0.0%
19 自分で計画を立てて勉強している。	66.7%	2.8%	53.7%	1.8%
<b>■難しいことにも挑戦する意欲 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
20 疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。	81.1%	2.4%	79.8%	1.4%
21 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている。	78.0%	1.7%	76.8%	1.8%
22 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	84.0%	1.0%	84.1%	1.8%
23 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	73.7%	2.4%	68.7%	2.4%
<b>■その他</b>				
24 読書は好きである。	71.7%	1.8%	68.0%	1.7%
25 先生方は、自分が安心して学習に取り組むことができるよう、支援をしてくれる。	91.4%	1.8%	90.0%	2.7%
26 家の人や地域の人に認められたり、支えられたりしていると感じることがある。	85.9%	2.8%	85.8%	2.3%
27 自分の学びや成長に学校以外の様々な人(家の人を含みません)が関わっていると感じている。	82.1%	2.4%	83.5%	2.5%
28 先生や家族以外にも、カウンセラーや相談窓口など、必要なときに悩みを相談できる大人がいる。	65.9%	4.3%	66.7%	4.9%
29 自分が学ぶ場所は、ケガをしたり事故が起きたりしないよう、安全が守られている。	91.6%	1.2%	90.7%	1.5%
30 健康診断の結果等から、自分の体の成長や健康状態を知っている。	84.9%	1.9%	82.7%	0.8%
31 健康のために、自分には何かが必要かを考えて生活しようとしている。	82.3%	1.5%	80.1%	1.7%
32 「札幌っていいな」と感じることがある。	91.8%	0.7%	89.4%	1.8%
33 文化、スポーツについて、参加できる環境がある。	87.2%	0.9%	88.2%	1.9%
34 (ALTとの活動など)外国の人と関わることが楽しいと思う。	81.5%	-0.5%	82.1%	0.8%

※数値はいずれも「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」など、肯定的な回答の割合を示している。  
 ※「R7-R6」は肯定的な回答の割合の昨年度からの変化を示し、緑がプラスの変化、赤がマイナスの変化を示す。

ICTの活用についてのアンケート 集計 (令和7年度)

質問	小学校	R7-R6	中学校	R7-R6
<b>■難しいことにも挑戦する意欲【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
1 端末を使うことで、勉強がおもしろい、楽しいと思うことがある。	89.7%	0.6%	84.6%	0.1%
2 疑問や課題を解決するために、端末を使って自分なりに調べようとしている。	87.5%	1.8%	91.0%	1.9%
<b>■「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
3 端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。	73.4%	0.2%	71.7%	1.2%
4 端末を使う活動で、友達の意見を進んで知ろうとしている。	83.5%	0.9%	84.1%	0.5%
5 端末のアプリケーションを自分で選んで、学習を進めている。	79.2%	0.9%	73.2%	2.9%
6 家庭で端末を活用することで、学習が充実している。	75.4%	2.1%	70.5%	4.7%
<b>■意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
7 端末を使った交流で気付いたことを自分の学習に取り入れようとしている。	79.6%	1.4%	79.1%	2.3%
8 プログラミングの学習では、繰り返し試しながら改良していくおもしろさを感じる。	77.2%	1.7%	67.7%	2.2%
<b>■自分の「伸び」を実感して新たな目標をもつ 【「学ぶ力」育成に向けた5つのポイント】</b>				
9 端末のアプリケーションを使うことで、いろいろな表現をすることができるようになったと感じる。	84.1%	1.5%	83.4%	2.1%
10 学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う。	92.9%	0.9%	91.1%	0.7%
11 端末を活用することで生活をもっと豊かにすることができると思う。	85.5%	-0.1%	88.5%	1.8%
<b>■生活を自らコントロールする力 【「学ぶ力」育成の5つに向けたポイント】</b>				
12 端末やスマホ等のICT機器を使うときは、夜遅くにならないなど、時間帯に気を付けて使っている。	73.2%	1.5%	62.7%	0.4%
13 授業以外で端末を使うときは、時間が長くなりすぎないように、使う時間の長さを自分で決めている。	68.1%	1.4%	58.3%	0.2%
14 端末・アカウント(ID)・パスワードを適切に取り扱っている。	93.0%	0.0%	94.5%	-0.2%
15 情報の正しい活用の仕方を考えて端末を使っている。	92.8%	1.0%	94.5%	0.0%

成果・課題と次年度の方向性

数字はそれぞれ、学習など、ICTの活用を示している

【着眼点①】心理的安全性の高い学校づくりと自治的な活動の充実

3の自己承認に係る項目は、昨年度より肯定的な回答の割合が大きく増加し、初めて7割に達した。加えて、28の値も大きく増加していることから、引き続き、子どもの声を聴くことを大切にしながら、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる心理的安全性の高い学校づくりを目指すとともに、さっぽろっ子自治的な活動を推進し、子どもたちの自己有用感を高めていく取組を充実させる。

【着眼点②】子どもの思いや願いを大切に学びを展開する

6、7、13、3は、自分の考えを伝えるといった内容に係る設問である。いずれも昨年度より、肯定的な回答の割合が増加している一方、他の設問に比べると低い値となっている。「学ぶ力」の育成において、より子どもの思いや願いを大切に学びを展開できるように、探究の過程において、自己選択・自己決定の場面や、進んで他者を求め、対話によって思考を再構築するような場面が充実するよう、どの子にとっても「工夫の余地」が担保されるような場面を、単元や題材の中に効果的に位置付けていくことが重要である。

【着眼点③】学校・家庭が一体となって子どもの学びを支える

6の値が増加していることから、家庭の学習においても端末の活用の充実が効果的と考えられるが、18、19、13の値が低いことから、子どもが自分で計画を立てたり、端末の使用について自ら調整できる力を育むことが大切であると考えられる。「さっぽろっ子『学び』のススメ」や「ICT活用のススメ」を活用しながら、子どもの習慣づくりを支えたり、子どもが必要性を主体的に判断して端末を持ち帰って家庭学習を充実させたりできるように、家庭と連携して子どもの成長を促す関わりを進めていく。

【次年度の方向性】

子ども一人一人の思いや願いを大切にしながら主体性を引き出し、探究の過程において子どもが工夫しながら学び進められるような指導の充実